

## 第2回 平成23年5月18日(水)

第2回の一流塾は、講師に金重凱之氏(国際危機管理機構 代表取締役社長)、椎名武雄氏(日本アイ・ビー・エム(株) 名誉相談役)をお迎えしました。冒頭、塾長の一柳から日本は東日本大震災を契機として大きく変革せざるを得ない。どのように時代が変わっていくのか、何が震災から学べるのか、問題意識をもって今日のお二人の講師の講義を聞いて欲しいと述べました。



講師 金重 凱之 氏



講師 椎名 武雄 氏

金重氏は、『あなたは地震災害から救われるか -企業が直面する震災リスク-』と題し、東日本大震災を契機に地震のリスクが見直され、今後30年以内に首都直下、東海、東南海、南海で大規模な地震が発生する可能性が指摘されている。地震という防止・回避できない被害を最小限化するためには、BCP・BCM を活用し“減災措置”を講ずる必要があるが、事後の対応では手遅れなので、事前の準備が非常に大切である。また、震災対策は公的機関による支援を期待しがちであるが、緊急事態が広範囲で被害が甚大であるほど、公的機関の支援は期待できない。『自助』(自衛意識)を中心としつつ、『共助』(近隣住民と助け合い等)を求めながら『公助』でこれを補うつもりをしておかねばならないと、震災リスクに対する心構えを述べられました。塾生からは「震災対応を見直すよい契機となった」等の声が寄せられました。

椎名氏は、『これからの世界と日本』と題し、これからの日本や世界の状況を考えるためには、過去と現在で状況が異なることをきちんと認識しておかなければならない。世界は米ソ2大国を軸とした冷戦構造から多極化が進み、2001年の9.11 米国同時多発テロはパックス・アメリカナの終焉と考えられる。日本は、これまで豊富な人的資源に恵まれ政官財のトライアングルが上手く機能し、経済復興を果たしてきたが、現在は「少子高齢化」「低成長」「グローバル化の伸長」といった問題に直面している。将来に対して悲観的な見方がされることが多いが、過去にモノ作りで発揮してきた日本人の素晴らしさを、他の分野で発揮すればまだまだ活躍出来る余地がある。経営者はピンチの時こそビジネスの機会があることを忘れずに前向きに取り組まなければならない、と檄を飛ばしました。講義後の質疑応答でも活発な質疑が行われ、塾生からは、「経営者は夢をもち、ポジティブな視点を持たなければならないことを改めて認識した」、「まさしく“本物”に触れるよい機会であった」等の声がありました。



特別顧問 福川伸次氏



特別ゲスト 残間里江子氏



講義後の懇親会では、特別ゲストに残間里江子氏(プロデューサー、club willbe 代表)をお迎えし、最近出版された著書「人と会うと明日が変わる」の執筆の契機となったエピソードや、最近米国では「ソーシャル・アントレプレナー」が盛んになってきており、これからは「社会性」がキーワードになるのではないか?等のお話をご披露頂きました。懇親会には、塾特別顧問の福川伸次氏(財団法人機械産業記念事業財団会長)もかけつけて頂き、「震災を契機として、『人間価値』を中心とした『新産業革命』をおこしましょう!」とお話頂き、大いにもりあがりました。